2019 SUZUKA CLUB MAN RACE Round 5

CLUBMAN RACE

2019 鈴鹿クラブマンレース Round 5
開催報告書

■開催概要

●シリーズ名称：2019 鈴鹿クラブマンレースRound 5
●主催　　：淀レーシングクラブ(チーム淀)、鈴鹿モータースポーツクラブ(SMSC)
●協力　　：AASC、ARC、ARCN、KRHC、OCCK
●競技　　：JAF公認・準国内格式　公認番号2019-3003
●会場　　：鈴鹿サーキット 国際レーシングコース 西コース(3.475km)
●開催レース　：総参加台数／96台
RS・CS2クラス／15台
サーキットトライアル／12台
FFチャレンジ／14台
スーパーFJ／17台
フォーミュラEnjoy／23台
FIT 1.5 Challenge Cup／15台
●開催日　　：2019年9月22日(日)
●天候／路面　：曇りのち雨／ドライのちウェット

■次回レース開催概要

●シリーズ名称　：2019 鈴鹿クラブマンレースRound 6
●開催日　　：2019年10月20日(日)
●主催　　：オート スポーツ クラブ アツタ、AASC、SMSC
●会場　　：鈴鹿サーキット 国際レーシングコース 東コース(2.243km)
●開催クラス　：スーパーFJ、FIT 1.5 Challenge Cup、クラブマンスポーツ、FFチャレンジ、CS2・RS(混走)、
フォーミュラEnjoy

鈴鹿クラブマンレースRound 5は、シーズン唯一の西コースを舞台として開催された

気軽に楽しむサーキットトライアルも実施
急な降雨により決勝はウェットコンディションへ

「鈴鹿クラブマンレースRound 5」は、舞台を西コースに移して行われた。

当日午前中の天候は曇り。ドライコンディションで進行していましたが、決勝ヒートの第1レース、RS・CS2クラスが終了した頃から降雨となり、その後のレースはウェットコンディションで行われることに。

この日は12台が参加したサーキットトライアルも開催。午前、午後に1ヒートずつ、各20分間の走行でサーキットを楽しみました。ベストタイムはB3クラスで出走した中嶋努が第1ヒートでマークした1分32秒910となった。

一方、レースは計5レースの中、2レースで最終盤にセーフティカーが導入されるなど、雨の影響に悩まされる場面が多く見られたものの、各レースともこれまで連勝を重ねているドライバーが、さらに連勝を伸ばす結果となった。今季のシリーズも次のRound 6と最終戦を残すのみとなった。どのような展開で推移していくのか、注目していきたい。

ナンバー付き車両で気軽に楽しめるサーキットトライアルに臨む参加者たち

CLUBMAN RACE

2019 鈴鹿クラブマンレース Round 5 レースレポート(1)

■RS･CS2 Class

ポールポジションを獲得したのはRSクラスの阿部博行、2番グリッドには同クラスの近田直人がついてレーススタート。CS2クラスは3番グリッドの松本吉章を先頭に、中里紀夫、大文字賢浩が追う展開になる。大文字はクラストップでオープニングラップを終えると、RSクラスの阿部も独走態勢に入る。レース終盤、コース上でのマシン単独によるスピンがあり、セーフティカーが導入。そのまま各車がチェッカーを受けることになり、阿部が完勝。CS2クラスは大文字とのバトルを制した中里が勝利した。

ポールポジションを獲得した#18阿部博行。スタートから好調をキープして、ポールtoウィンとなった

CS2クラスで表彰台に立った中里紀夫、大文字賢浩、松本吉章の3人。序盤から順位が目まぐるしく変わった

CLUBMAN RACE

2019 鈴鹿クラブマンレース Round 5 レースレポート(2)

■FFチャレンジClass

レース開始10分前から雨が降り出し、ウェット宣言が出されレースはスタート。自身初のポールポジションから好スタートを決めたのが山本高大だ。山本を追い武田泰一が続くと、3周目で武田がトップに立つ。9番グリッドスタートの尾高伊織も、徐々に順位を上げ始め、上位争いに加わり始める。ウェイトハンデ30kgを背負うトップの武田だが、物ともせずにトップを快走してみせる。レースは武田がそのまま逃げ切りに成功。2番手を走行していた尾高を12周目でパスした林陽介が2位の座を獲得した。

＃21武田泰一は2番グリッドからスタート。前を走る山本高大を追い、序盤でトップに立つとレースを優位に進めた

ウェットコンディションの難しいレースを制した武田泰一。林陽介、尾高伊織と続いた

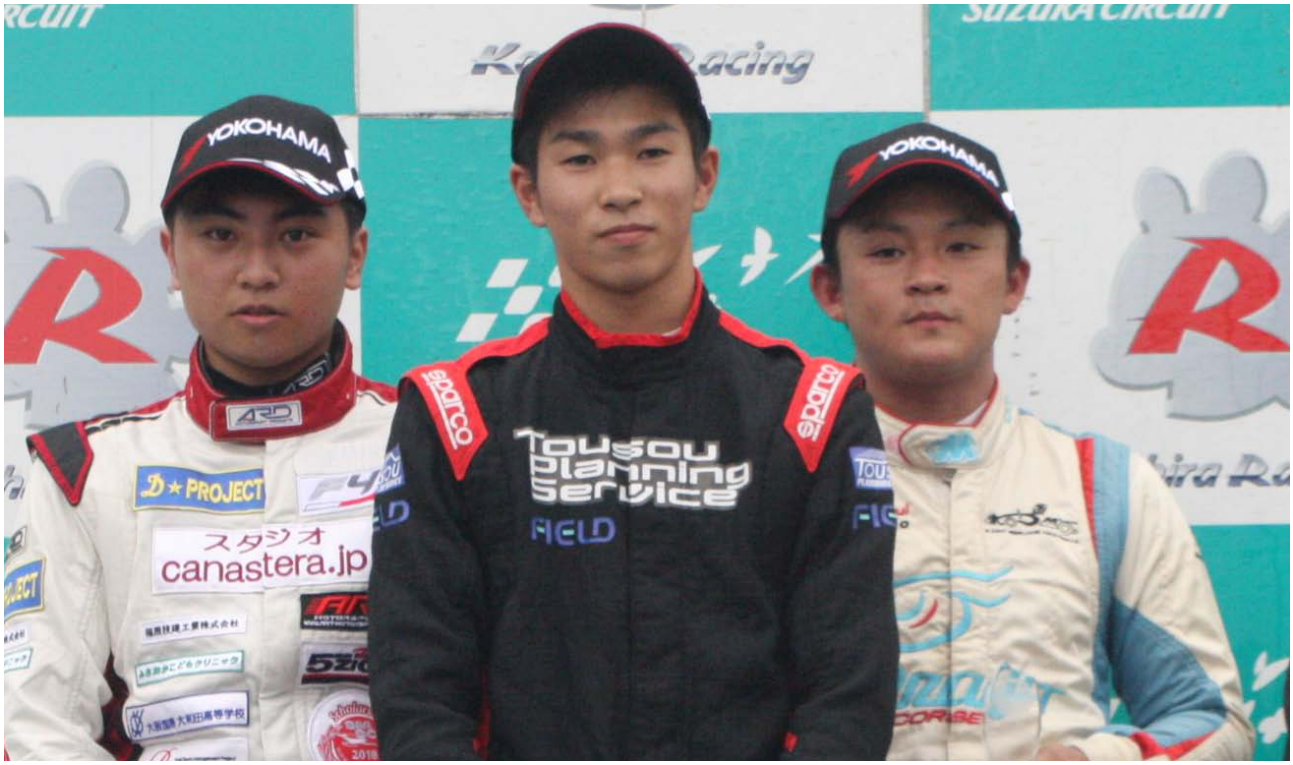
CLUBMAN RACE

2019 鈴鹿クラブマンレース Round 5 レースレポート(3)

■スーパーFJ class

早くも75ポイントを積み上げ、圧倒的リードを誇る澤龍之介がポールポジションからスタート。2番グリッドスタートの岩佐歩夢も好スタートで澤と横並びで1コーナーに侵入していく。序盤から猛プッシュする岩佐だが、澤は冷静にトップをキープし続けている。3番手を走るのは荒川麟だが、トップ2との差は大きい。レースが折り返しを迎える頃から雨が降り出す。岩佐は10周目でファステストラップをマークするが、澤をパスするまでには至らない。澤は12周目でファステストラップを塗り替え連勝を伸ばすことになった。

＃56澤龍之介はポールtoウィンで3連勝。今シーズン5戦4勝と圧倒的な速さを披露した



優勝した澤、2位の岩佐歩夢、3位の荒川麟が並んだ表彰台。この日、18歳の誕生日だった岩佐は澤をパスすることはできず

■フォーミュラEnjoy Class

FE2で今シーズン負けなしの大崎達也がこの日もポールポジションから好発進。まったく危なげない走りで、一度もトップを譲ることなく勝利。FE1は小俣弘之が常にリードするが、10周目で痛恨のスピン。終盤で降雨によりセーフティカーが入る荒れたレース展開にも助けられ、貫戸幸星が勝利を飾った。

【FE1】

クラス1位のポジションは12番グリッドの小俣弘之。レース直後から、Ryuu Mao、富永明が小俣を追う展開になる。小俣はクラス1位をキープし続けると、2番手争いが貫戸幸星、宝閣善樹、安橋徹らによって激しくなる。9周目で雨が強くなると、10周目で小俣がスピンを喫してしまう。レースは貫戸がクラス優勝となった。

【FE2】

大崎達也は、この日のレースでもポールポジションから素晴らしいスタートを決める。2番グリッドスタートの亀蔵がレース直後に順位を落とすと、大川文誠や中嶋匠が大崎を追いかける。ぐんぐんと逃げる大崎に対して、2番手争いに辰巳秀一も加わり激しさを増す。レースはそのまま大崎がポールtoウィン。2番手争いは辰巳が制することになった。

フォーミュラEnjoyクラスでは、この日一番多い23台がグリッドに整列。特にFE1は、最後まで順位争いが白熱した

■フォーミュラEnjoy Class

■フォーミュラEnjoy(FE1)仮表彰式　FE1クラスで優勝したのは、普段はFE2を走っている貫戸幸星。安橋徹、宝閣善樹も見事な走りで表彰台に立った

■フォーミュラEnjoy(FE2)仮表彰式　FE2クラスは大崎達也が今シーズンの連勝記録を伸ばす結果になった。「残り2戦2勝が目標」と語った

■FIT 1.5 Challenge Cup Class

今シーズン、まだ勝利のないHIROBONはポールポジションを獲得。見事なスタートでホールショットを奪う。HIROBONを2番手で追うのが伊藤裕士、そしてランキングリーダーの岡田拓二は3番手を走行している。完全なウェットコンディションで行われているレースはHIROBONと伊藤による一騎打ちの色合いが濃くなる。だが、中盤から後半にかけて岡田をパスした松尾充晃が3番手に浮上。すると、前を走る2台に迫り、トップ争いは3台に膨れ上がる。トップのHIROBONは最終盤でもペースを落とさず、逃げ切りに成功。見事にポールtoウィンを決めてみせた。

ポールポジションを獲得した#70 HIROBON。開始時点で雨は降っていないが、レース中に雨が降るシーンもあった

レース同様に激しかったのがシャンパンファイト。ギャラリーからも、歓声が送られた

Voice of Pick up Driver

この日、キラリと光ったドライバーに一問一答

この日、キラリと光ったドライバーに一問一答
「Voice of Pick up Driver&Team」。

フォーミュラEnjoy Class FE2で今シーズン負けなし

大崎 達也 選手(K&G 三祐商會 WS B.N.B.)

Q: 2位のドライバーに大差をつけて勝ちました。
「スタートに成功できたのが大きかったです。そのあと、後ろがバトルするのが見えたので、序盤から差を広げようと思いました」

Q: 調子自体はいかがでしたか。
「実は昨日まで調子が良くなかったんです。でも、今日になって切り替えることができました」

Q: 去年から負けなしなんですよね。
「去年はFE1を走っていました。そこから連勝が続いているのが、うれしいです」

Q: 次戦への抱負を聞かせてください。
「やっぱり、このまま連勝を伸ばすことが目標。勝ったままシーズンを終えたいです」